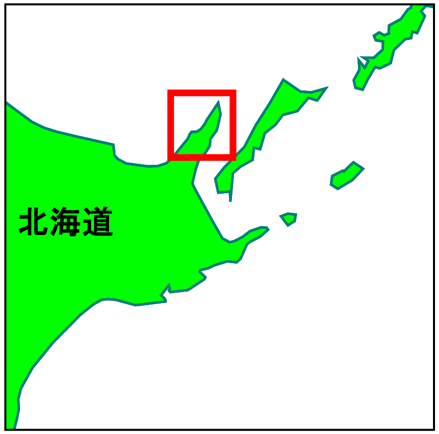
資料３－２

知床生態系維持回復事業計画の策定に関する説明資料



知床国立公園

指定　昭和39年6月1日

面積　陸域:38,636ha

　　　海域:約22,400ha

知床国立公園のシカによる被害状況

1980年の知床岬（知床財団提供）

植生の変化

現在の知床岬

シレトコスミレへの食害

シカによる樹皮剥ぎ

採食と踏圧による道路法面の損傷

知床生態系維持回復事業計画（案）の内容

- **共同策定省庁**　農林水産省、環境省
- **事業の期間**　下記の目標が達成されるまで
- **事業の目標**　エゾシカの個体数調整等を通じて、エゾシカの急激な増加が起こる前の1980年代初頭の植生を回復させることを当面の目標とする。なお、将来的には近代的な開拓が始まる前の生態系の回復を目指す
- **事業の区域**　知床国立公園全域

※下線は現行計画からの変更箇所

知床生態系維持回復事業計画（案）の内容

- **事業の内容**

（１）生態系の状況の把握及び監視

→生態系の状況把握・監視を実施する観点を明記（エゾシカ影響の把握及び事業成果の評価のため）

（２）生態系の維持又は回復に支障を及ぼすおそれのある動植物の防除

→捕獲したエゾシカの有効活用を明記

→「外来植物の防除」を「外来生物の防除」に修正

（３）動植物の生息環境又は生育環境の維持又は改善

（４）生態系の維持又は回復に資する普及啓発

（５）前各号に掲げる事業に必要な調査等に関する事業

→植生指標の作成を追加

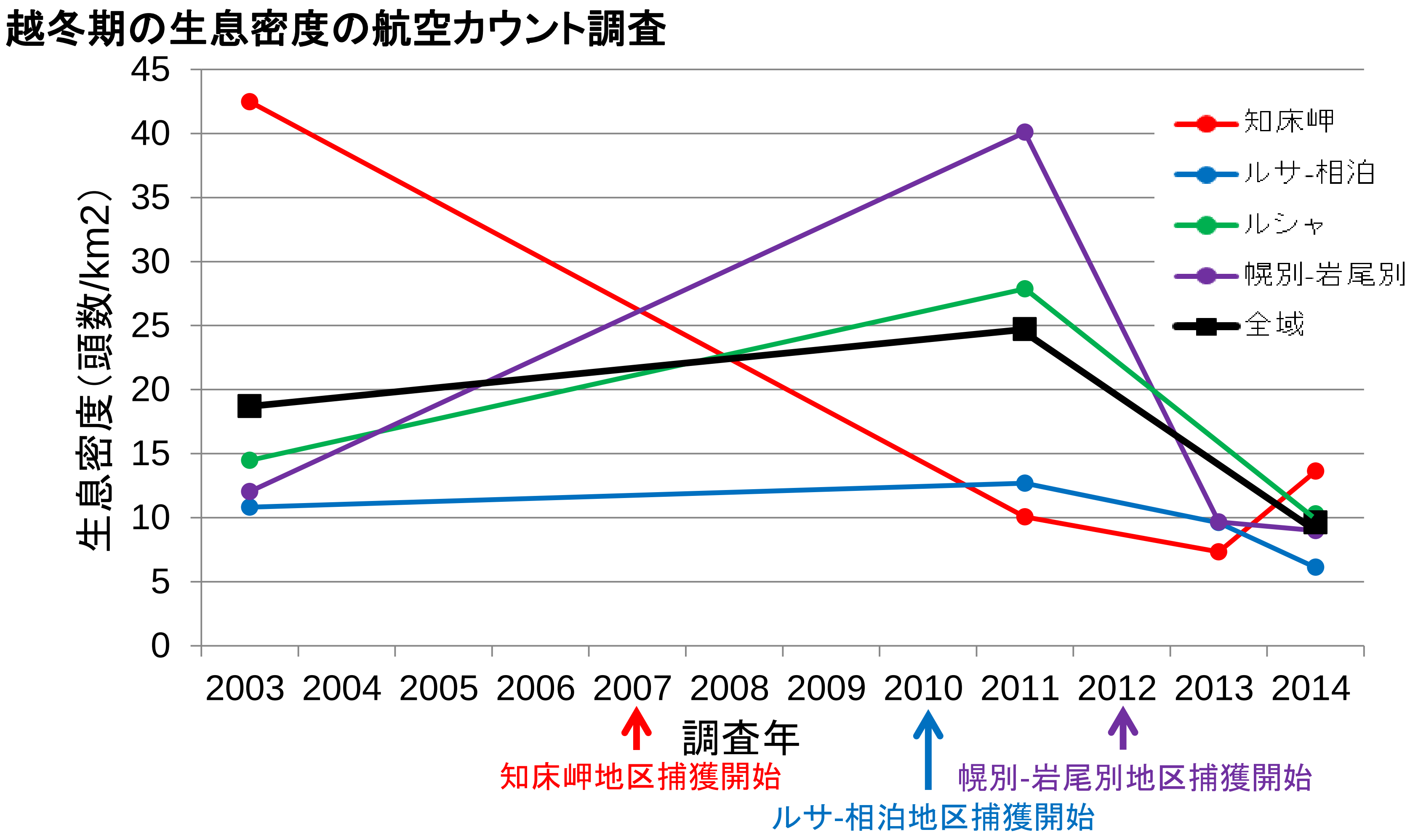
これまでの実施状況と成果① エゾシカの防除

エゾシカの捕獲実績（環境省事業）

地区	手法	H19	H20	H21	H22	H23	H24	H25	合計
知床岬	巻狩り	**132**	**122**	**158**	**57**	**216**	**32**	**9**	**726**
ルサ-相泊	ｼｬｰﾌﾟｼｭｰﾃｨﾝｸﾞ(定点)			23	25				48
	囲いわな				100	106	17	130	353
	流し猟式ｼｬｰﾌﾟｼｭｰﾃｨﾝｸﾞ					53	61	78	192
	巻狩り					29			29
	小　計			**23**	**125**	**188**	**78**	**208**	**622**
幌別-岩尾別	流し猟式ｼｬｰﾌﾟｼｭｰﾃｨﾝｸﾞ					309	237	2	548
	囲いわな					85	181	118	384
	くくりわな					58			58
	仕切柵でのわな式捕獲							87	87
	小　計					**452**	**418**	**207**	**1077**
合　計		**132**	**122**	**181**	**182**	**856**	**528**	**424**	**2,425**

生態系維持回復事業計画策定

これまでの実施状況と成果② エゾシカの生息密度の変化



・公園全域では2003年比でおよそ半減、2011年比でおよそ1/3に減少

これまでの実施状況と成果③ 植物の生育状況の変化

イネ科草本群落の小型金属柵内外の主な草本の推移(P2,P3,P5)

	柵内						内外差 @2013	柵外					
	2007	2009	2010	2011	2012	2013		2007	2009	2010	2011	2012	2013
高さ(cm)	115	110	126	146	171	166		120	103	99	121	141	131
被度(%)	91	98	99	100	100	100		88	90	89	97	100	100
ナガハグサ		25	27	65	40	8	+62		47	10	93	90	70
オオスズメノカタビラ		21	7	1	–	–	+ 1		10	17	2	1	1
ハンゴンソウ	53	62	58	48	54	39	+21	57	62	55	63	62	60
クサフジ	–	–	17	28	32	48	−25	–	–	–	0	–	23
エゾカワラマツバ	1	1	2	7	3	–		–	–	–	0	–	–
アキカラマツ	1	1	1	0	0	2	− 2	0	0	0	0	–	0
アメリカオニアザミ	8	–	–	–	–	–		7	–	–	0	–	0
イワノガリヤス	11	–	0	–	–	–		9	–	–	–	–	–
エゾイチゴ	0	1	1	2	0	5	+ 7	0	0	10	2	10	12
エゾイラクサ	–	0	3	10	17	3	+ 9	–	–	–	0	0	12
エゾオグルマ	–	–	10	5	7	3	+25	–	–	3	28	28	28

ササ群落の小型金属柵内外の主な草本の推移(P6)

	柵内						内外差 @2013	柵外					
	2007	2009	2010	2011	2012	2013		2007	2009	2010	2011	2012	2013
ササ高さ(cm)	32	56	52	76	80	88			24	38	39	53	74
被度(%)	90	98	100	100	100	100		60	75	95	100	100	100
クマイザサ	45	60	80	90	100	100		35	60	75	95	100	100
オオスズメノカタビラ	10	–	1	0	–	–		1	0	20	–	–	–
ハンゴンソウ	–	–	–	–	–	–		–	10	15	50	15	–
クサフジ	1	25	60	1	10	7	+13	0	0	0	1	10	20
アキカラマツ	2	3	5	25	30	30	−30	1	0	0	1	0	0
アメリカオニアザミ	5	10	–	–	–			7	1	0	5	–	–
イワノガリヤス	7	5	1	–	1	3	− 3	3	3	1	–	–	–
エゾイチゴ	15	–	5	15	15	20	−15	15	15	15	20	15	5

- **植生保護柵の外でもクサフジやエゾイラクサの被度やササの高さが増加。**
- **アメリカオニアザミやハンゴンソウは植生回復に伴い衰退。**

これまでの実施状況と成果④　普及啓発

- 「知床データセンター」ウェブサイトでの情報提供
  - ・各種計画や、関係機関が実施した事業の報告書等
  - ・「エゾシカ・陸上生態系WG」の資料及び議事録

- ニュースレターの発行
  - ・エゾシカ・陸上生態系WGでの議論等についてニュースレターにまとめ、斜里町、羅臼町の全戸に配布

知床科学委員会しんぶん
エゾシカ・陸上生態系ワーキンググループ NO.7

「知床で今何が起こっているの!?」「どんな調査が行われているの!?」など、タイムリーな情報をお伝えします。

エゾシカ・陸上生態系ワーキンググループって？

知床半島で、エゾシカや陸上生態系の管理をどのように進めるのか議論するための会議です。
この会議での意見をもとに、さまざまな事業が進められています。

今回の会議

7月12日（土）に釧路地方合同庁舎にて、今年度第1回目の会議があり、裏面のようなことを話し合いました。

必見! TOPIC　ルシャ地区でエゾシカの行動調査スタート！

知床世界遺産地域内では、増えすぎたエゾシカの捕獲事業が環境省により進められています。しかしルシャ地区（斜里町）では、これまで捕獲は行われていませんでした。遺産地域内の主要なエゾシカ越冬地のうち、唯一手つかずのルシャ地区をどうするか？その検討材料となる情報を得るため、ルシャ地区のエゾシカの行動範囲に関する調査が、今年度から開始されました。

麻酔で眠らされてGPS首輪を装着されたエゾシカ
麻酔から覚めて森へ帰るエゾシカ
首輪のデータを解析すると・・・
個体番号14003の6/11～7/7の行動圏

これまでに4頭のエゾシカを麻酔銃で生け捕りにし、GPS付き首輪を装着しました。さらに6頭のエゾシカに冬までに首輪を装着し、計10頭の行動範囲を2年間追跡する予定です。ルシャ地区にいるエゾシカたちの、季節ごとの行動面積は？夏と冬の生息場所はどれくらい離れているのか？首輪を装着したエゾシカたちの行動を知ることで、ルシャ地区を利用する群れ全体の動きを推測します。このようなデータを元に、捕獲適期の冬期は雪と流氷に閉ざされ、行くことがとても難しいルシャ地区で、どのような対策ができるのか検討していきます。

今回話し合ったこと

①昨シーズン実施されたシカ関連事業の結果と今後の計画
②知床岬の植生へのシカの影響を評価するための指標
③世界遺産隣接地区での捕獲事業計画
④知床生態系維持回復事業計画の改定

ココ注目!　平成25シカ年度の世界自然遺産地域内での捕獲実績

平成25シカ年度（平成25年6月～平成26年5月）の、知床世界遺産地域でのエゾシカ捕獲（環境省事業）は、左図のような結果になりました。

知床岬では、既に大幅な低密度化に成功していることもあり、捕獲頭数は9頭に留まりました。同じ場所で捕獲を続けると、捕獲数は年々減少していきますが、暫定目標である1平方キロメートルあたり5頭の密度を維持していく予定です。今後は、より捕獲が難しくなる低密度の状態下で、なるべく低コストで捕獲事業を継続する方法も検討していく必要があります。一方、今まで本格的な捕獲が行われていなかった斜里町ウトロの幌別川左岸や羅臼町アイドマリ川左岸の囲いわなでは捕獲頭数が伸びました。

ココ注目!　世界遺産隣接地区での取り組み強化

知床世界遺産地域と隣接する地区においても、エゾシカ捕獲事業が展開されています。国有林では林野庁（北海道森林管理局）が、それ以外の場所では主に町役場が事業主体となっています。
今年度以降、国有林でのエゾシカ捕獲事業がさらに強化されます。狩猟期間の林道の除雪強化や、複数の囲いわなの新規設置が予定されています。世界遺産地域での捕獲に加え、隣接地区での捕獲を強化することで、世界遺産地域への新たな流入が減ることが期待されます。
このように知床半島では、国や地方自治体が連携して自然環境保全に取り組んでいます。これは、世界遺産に登録されて関係機関の話し合いの場が増えた成果の一つと言えるでしょう。

（上）囲いわなに入ろうとするエゾシカ
（右）捕獲されたエゾシカ
（写真提供：知床森林生態系保全センター）

会議の内容をもっと知りたい方はコチラ
知床データセンター
http://dc.shiretoko-whc.com/

委員の常田です。

知床は、半島という半閉鎖系で面積も千平方㌔程度であり、冬期には標高三百㍍以下の越冬地にシカが集中するので、シカ管理を比較的行いやすい条件にあります。さらに、知床財団や遺産地域科学委員会など、科学的な管理を進めるための機構と人材が存在し、環境省のシカ管理予算が重点配分されています。知床での取り組みは、自然公園におけるシカ管理のパイロット事業と言えます。その成否は、新たな予算獲得の可能性をはじめ、全国的に様々な影響を与えるでしょう。
委員　常田　邦彦

一般財団法人自然環境研究センターに勤務し、シカをはじめとした中大型哺乳類の管理の他、外来生物防除などに関わっています。

■問合せ先■
環境省釧路自然環境事務所
〒085-8639
北海道釧路市幸町10-3 釧路地方合同庁舎4階
TEL 0154-32-7500 FAX 0154-32-7575

■発行：環境省　■制作：公益財団法人　知床財団　■発行日：2014年8月25日

他の主体で実施している事業の概要

林野庁

・知床岬地区及び幌別-岩尾別地区の1ha の防鹿柵における植生モニタリング

・公園及び周辺地域に設置した66箇所の定点調査区での植生モニタリング（５年で一巡）

斜里町

・生態系維持回復事業計画の確認を受けて、知床100㎡運動地における防鹿柵の設置や森林再生事業を実施。

・ライトセンサス等による個体数調査

今後の予定

- 当面は主要越冬地の生息密度5頭/km2を目標
- 植生指標により植生の回復状況から適正な生息密度の検討
- 低密度を維持するための捕獲手法の検討